

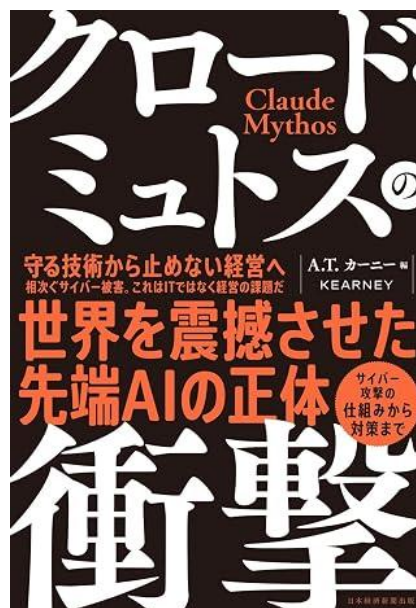
新刊『クロード・ミュトスの衝撃』を発売【A.T. カーニー】

先端 AI によって変化するサイバー攻撃に企業・重要インフラはどう向き合うべきか。「止めない経営」と「折れない防御」を実現するための実践的な対応策を提示

A.T. カーニー株式会社（東京都港区、日本代表：針ヶ谷 武文）は、先端 AI「Claude Mythos」（クロード・ミュトス）の進化によって変化するサイバー攻撃の実態と、企業に求められる新たな防御のありかを解説した書籍『クロード・ミュトスの衝撃』を、株式会社日経 BP 日本経済新聞出版より 2026 年 9 月 13 日（日）に発売しました。

先端 AI クロード・ミュトスがもたらした“衝撃”は、AI が攻撃対象の状況を読み取り、試行錯誤を重ね、失敗から修正しながら、複数の攻撃ステップを自ら組み立てていく能力を示したことにあります。こうした AI の進化により、企業は従来のように「侵入を完全に防ぐ」ことだけを目指す対策では十分に対応できない時代を迎えています。サイバーリスクは、IT 部門やセキュリティ部門だけが担う問題ではなく、事業継続や企業価値に関わる経営課題となっています。

本書は、サイバーセキュリティに関する技術的な解説にとどまらず、AI 時代に企業が事業を継続し、攻撃を受けた場合にも速やかに復旧できる組織をつくるための経営上の論点を整理しています。また、こうした一連の取り組みを「折れない防御」と位置づけ、企業が実行に移すための具体策を提示しています。高度な AI 防御ツールを導入するだけでは、ミュトス型攻撃に対抗することはできません。重要なのは、守るべき資産を識別し、重要な領域を防御し、異常を検知し、インシデントに対応し、復旧すること。そして、これら一連の活動を経営として統治することです。



<目次>

はじめに「攻撃者が眠らなくなった日」

第1章 クロード・ミュトスとは何か ～ 英国 AISI 検証で見えた「新しい攻撃者像」

第2章 AI 時代の攻撃はどこが変わるのか ～ 速さ、量、執念、そして横展開

第3章 重要インフラのレガシーシステムはなぜ狙われるのか

第4章 クロード・ミュトス型攻撃のシナリオ ～ 侵入から業務停止まで

第5章 サイバー衛生の再定義 ～ まず実施すべきは“高度な AI 対策”ではない

第6章 レガシーシステムを止めずに守る ～ 現実解としての分離・監視・補償統制

第7章 AI を防御に使う ～ 守る側のクロード・ミュトス対策

第8章 経営は何を決めるべきか ～ AI サイバーリスクを事業継続リスクとして扱う

第9章 クロード・ミュトス対策ロードマップ ～ 30 日、90 日、1 年でやること

第10章 AI 時代の防御は、完璧ではなく“折れない”ことを目指す

* Claude および Claude Mythos は、Anthropic 社が開発・提供する AI モデルです。本書は、Anthropic 社ならびに本書で取り上げる企業、機関、団体から独立して制作されたものであり、これらによる監修、協賛、推薦を受けたものではありません。

書籍概要

書名：『クロード・ミュトスの衝撃』

発売日：2026 年 9 月 13 日（日）

出版社：株式会社日経 BP 日本経済新聞出版

仕様：264 ページ、単行本

定価：2,420 円（税込）

日経 BP 書籍紹介ページ：<https://bookplus.nikkei.com/atcl/catalog/26/08/26/02748/>

A.T. カーニーについて

A.T. カーニー（グローバル・ブランド名：Kearney）は、100 年にわたり世界有数の経営コンサルティングファームとして、Fortune Global 500 企業の 4 分の 3 以上をはじめ、世界各国の政府機関に信頼されるパートナーであり続けてきました。世界 40 カ国以上に拠点を展開し、私たちの最大の強みは「人」にあります。インパクト・ファーストを掲げ、独創的な発想と実行力をもって、顧客企業が直面する最も困難な課題に挑み、変革の実現をともに推進します。日本には 1972 年に進出し、主要産業のリーディングカンパニーに、戦略策定から変革の実行まで一貫した支援を提供しています。<https://www.jp.kearney.com/>

本件に関するお問い合わせ

部署名：A.T. カーニー株式会社 広報

メール：Japan.PR@kearney.com